学校番号	３２０

令和３年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史Ｂ	単位数	４単位	年次	３年次
使用教科書	詳説　日本史Ｂ　改訂版　（山川出版）						
副教材等	詳説　日本史図録【第７版】（山川出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

現代の社会情勢や諸問題・国際関係を理解し、日々変化する国際社会を生き抜くために、過去の先人たちが残した諸史料をもとに、過去と現在の違いや共通点に気づかせ、知識の幅やあらゆる分野との関係性を結び付けることを重視する。その際、能動的な学習を促すために生徒の思考を働かせる発問をより重視し、生徒の発言をもとに広げていくことで、思考力・判断力・表現力の向上を目指す。また、映像授業を活用することで理解力の向上を図る。

日本史としての縦の流れや繋がりだけでなく、他国である世界の動きや関係性にも触れるところを重視する。また、日本の伝統や文化、人々の動きを理解するために地理的条件や特徴の提示をするため資料集の活用を重視する。

２　学習の到達目標

我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	我が国の中世から近現代の歴史と現代の諸課題に対する関心を持ち、主体的・意欲的に学習活動をしている。	我が国の中世から近現代の歴史と現代の諸課題に関する歴史的事象を多面的・多角的に比較・考察した上で、その結果を的確に発表（レポートなど）する。	我が国の中世から近現代の歴史と現代の諸課題に関する諸資料を見学・収集し，吟味・考察してその成果を適切に年表・地図などに表現する。	我が国の中世から近現代の歴史と現代の諸課題に関する相互の因果関係を公正に読み取る能力と近現代史を座標軸となる知識を踏まえて大観的に捉えることのできる能力を身につけている。
評価方法	ワークシート レポート	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	定期考査 小テスト （確認テスト）
	〔主題学習〕 振り返りシート	〔主題学習〕 エピソードワーク 発問、レポート	〔主題学習〕 資料集・新聞	〔主題学習〕 内容のまとまり

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期中間	第1部　原始・古代　第1章　日本文化のあけぼの	1．文化の始まり 人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。	○	○			a.日本列島における旧石器文化・縄文文化の成立を自然環境の変化や大陸との影響に着目してとらえることができたか。	定期考査 ワークシート ノート
		打製石器・磨製石器・縄文土器の発掘、竪穴住居の状況など考古学の成果によって教科書の叙述が成り立っていることに気付く。		○	○		b.黒曜石などの考古資料を提示し、集落・風習・食生活の変化などを踏まえて旧石器文化・縄文文化の社会について考察できたか。	
		2．農耕社会の成立 大陸からの稲作伝播の様子や地域性の顕著な道具の分布を踏まえて弥生文化の形成を考察する。	○	○			b.水稲耕作の開始・金属器の伝来が弥生文化の社会に与えた影響を弥生土器や発掘された農具から考察できたか。	
		集落・墓の変容から富の蓄積を理解し、小国が形成される過程を東アジア世界との交流と関連付けて考察する。		○	○		c.小国の形成から邪馬台国などの小国の連合について、環濠集落や武器の出現、『魏志』倭人伝などの文献資料に基づき、国内外の情勢を踏まえて多角的に考察できたか。	
		3．古墳とヤマト政権 地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容からとらえる。	○		○		b.古墳の形状や大きさの変化、石室など埋葬施設の変容からヤマト政権と各地の政治勢力の関係を考察できたか。	
		ヤマト政権による国家の形成過程について、東アジア世界との関係を踏まえて考察する。		○		○	b.中国及び高句麗・新羅・百済など朝鮮半島の情勢との関連、文字や仏教など大陸文化の受容を踏まえ、ヤマト政権の成立についてとらえることができたか。	
		古墳時代後期～終末期の変容と、ヤマト政権の政治制度を理解する。		○		○	d.古墳時代後期から終末期にかけての文化・生活の変化、大王を中心とする政治制度を踏まえ、ヤマト政権を総合的に理解できたか。	

	第2章　律令国家の形成	1．飛鳥の朝廷 ヤマト政権の権力争いや大陸文化の摂取に着目して、飛鳥時代を考察する。 2．律令国家への道 律令国家が成立するまでの政治の動向と白鳳文化の形成過程について考察する。 律令に基づく国内統治体制について理解する。 3．平城京の時代 律令体制の完成期としての奈良時代を、律令体制の状況を多角的・多面的にとらえて考察する。 平城京における政治動向について、土地政策も含めて考察する。		○ ○ ○ ○ ○	○ ○	○ ○ ○ ○ ○	d.血縁関係の推古天皇・厩戸王・蘇我馬子による政権運営や飛鳥文化の形成について、仏教の受容や遣隋使などの大陸との交流を踏まえて考察できたか。 b. 天智朝・天武朝・持統朝の政治動向に着目して、律令体制整備の過程と白鳳文化の形成過程を考察できたか。 d.大宝律令に基づく、統治組織・官僚制・土地と民衆の把握・税制について理解できたか。 b.平城京における大宝律令・養老律令による律令体制が整備について、遣唐使の派遣や地方社会との関わりなども踏まえて考察できたか。 c.文献資料を基に、藤原氏を中核とする政治抗争の進展と墾田永年私財法にみられる公地公民制の崩れなど土地制度の変容を関連づけて考察できたか。	定期考査 ワークシート ノート
	第2章　律令国家の形成	4．天平文化 天平文化における政治性と国際性、国家仏教の展開などに着目して、古代国家の展開を理解する。 5．平安王朝の形成 平安前期を中心とした古代国家の推移について、東北経営や政治改革、地方統治の変容を踏まえて、律令体制の変質を考察する。 東アジアとの関係を踏まえて、唐風文化である弘仁・貞観文化を理解する。				○ ○ ○	d.盛唐文化の受容を踏まえ、国史などの編纂や仏教美術の展開、仏教の興隆による鎮護国家の思想の誕生などについて考察できたか。 d.蝦夷や東アジア世界との関係の変化を踏まえて、中央における藤原北家の台頭、地方における土地支配体制の動揺について考察できたか。 d.真言宗・天台宗などに着目して、唐文化を受容し、密教芸術が生まれた弘仁・貞観文化の意義を理解できたか。	定期考査 ワークシート ノート

1学期期末考査	第3章　貴族政治と国風文化	1．摂関政治 藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察させる。 2．国風文化 大陸文化の消化と末法思想を前提とした新しい貴族文化として国風文化が展開されたことを理解する。 3．地方政治の展開と武士 律令制に基づく地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質、荘園の拡大をもたらした経過を考察する。 地方の反乱と鎮圧など、武士の成長と進出過程について、源氏などを例にとって考察する。		○

	第2部　中世　第4章　中世社会の成立	1．院政と平氏の台頭 院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。 政治の動向、国際関係・経済・文化への対応を踏まえて、平氏政権の特性について考察する。				○ ○	d.延久の荘園整理令により荘園公領制が明確化されたことを踏まえて、院政の政治構造や経済・社会・文化を理解できたか。 d.外戚関係や日宋貿易の展開など平氏政権の特性を考察することを通して、武家政権の成立過程を把握できたか。	定期考査 ワークシート ノート
		2．鎌倉幕府の成立 鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。		○		○	b．源平争乱から幕府の成立過程、幕府と朝廷の二元的支配構造、封建制度の成立などに着目することができたか。	
		3．武士の社会 承久の乱に伴う公武関係の変化に着目して、将軍独裁体制から執権政治の確立に至る過程を考察する。	○	○		○	a. 公武関係の変化の背景として、武家政権の変容を見ることができたか。	
		4．蒙古襲来と幕府の衰退 蒙古襲来による政治・経済・文化への影響が幕府の衰退につながっていくことを理解する。			○	○	c. 文永の役・弘安の役、得宗専制政治の展開、農業・商工業の発達による社会の変動、永仁の徳政令の発布などを取り上げ、考察できたか。	
		5．鎌倉文化 庶民や武士の活動が活発化し、鎌倉仏教が成立するなど、文化の新しい気運が生まれたことを理解する。		○	○	○	c. 鎌倉仏教の多様な動きの社会的・思想的な意義やその影響について考察できたか。	

1学期期末考査	第5章　武家社会の成長	1．室町幕府の成立 南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。		○		○	d.鎌倉幕府の滅亡、建武政権の成立と崩壊を踏まえて南北朝の動乱を考察し、守護大名に着目して室町幕府の機構の確立について理解できたか。	定期考査 ワークシート ノート
		琉球・蝦夷ヶ島を含む東アジアとの交流が中世日本にもたらした影響について理解する。			○	○	c. 日明貿易・日朝貿易の展開、琉球やアイヌの動向に着目できたか。	
		2．幕府の衰退と庶民の台頭 庶民の活動が社会秩序の変革の原動力として成長していったことを踏まえて、幕府の動揺や下克上の風潮を考察する。		○		○	b. 惣村の形成や土一揆の発生など庶民による自治的な組織の成立に着目して、応仁の乱に代表される幕府の動揺や衰退を考察できたか。	
		諸産業の発達による庶民の台頭を踏まえて、中世社会の多様な展開を幅広く理解する。	○		○	○	d.流通経済の進展による農業・商工業の発達を踏まえて庶民が台頭する姿をとらえられたか。	
		3．室町文化 武家政権の支配の進展や東アジア世界との交流に着目して、武家文化と公家文化及び大陸文化と伝統文化のかかわりについて理解する。		○	○	○	c. 南北朝・北山・東山文化を通じて、武家・公家文化の融合、禅文化の果たした役割などを踏まえ、能・狂言・茶の湯・生花などを例にとり理解できたか。	
		4．戦国大名の登場 応仁の乱以降、地方権力として、登場した戦国大名や各地に展開した都市について、諸地域の地理的条件と関連づけて考察する。		○		○	b. 富国強兵策を推進して、領国統治を強化した戦国大名、堺や博多など都市の発展を踏まえて、戦国期の日本の多様性を考察できたか。	

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
2学期中間考査	第Ⅲ部 近世 第6章 幕藩体制の確立	1．織豊政権 ＊大航海時代と呼ばれる世界史的背景を踏まえて、ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察する。		○	○	○	b 鉄砲やキリスト教の伝来、南蛮貿易の展開を踏まえてヨーロッパ世界との接触とその影響について考察できたか。	定期考査 ワークシート
		＊織田信長の統一事業、豊臣秀吉の天下統一、秀吉の朝鮮侵略と続く織豊政権の特色と意義、その後の時代への影響について考察する。	○	○		○	d幕藩体制とのつながりに着目して、検地や刀狩にみられる兵農分離策を踏まえて、織豊政権の統一過程とその政策を考察できたか。	
		2．桃山文化 ＊新興の大名や都市の豪商の精神を反映した桃山文化について、町衆の生活にも着目し、時代的背景を踏まえて考察する。		○	○	○	c桃山文化が幅広い国際性を持ちつつ、生活文化の中にとけ込んでいったことについて、秀吉の朝鮮侵略や南蛮文化にも着目して考察できたか。	
		3．幕藩体制の成立 ＊江戸幕府の成立による幕藩体制の確立過程を考察する。		○		○	b 幕藩体制の特質について、幕府と藩・朝廷・寺社との関係を踏まえて考察できたか。	
		＊江戸幕府の鎖国政策について、単なる対外貿易の遮断ではなく、鎖国後の貿易関係の在り方も含めてその影響と歴史的意義について考察する。		○	○	○	b初期外交から鎖国までの過程について、禁教徹底に伴う貿易統制の側面だけでなく、琉球・朝鮮・蝦夷地との交易など東アジアの動向と関連させて考察できたか。	

	第7章　幕藩体制の展開	４．幕藩社会の構造 ＊幕藩体制の確立期の経済・社会を兵農分離や村落・都市支配などの観点から、多面的・多角的に考察する。	○	○		○	d 幕藩体制下の支配体制、封建的身分秩序の形成、経済的基盤などを踏まえて考察できたか。	定期考査 ワークシート
		歴史へのアプローチ ○歴史の説明　朝鮮通信使 ＊江戸時代に朝鮮から来日した使節の名称・役割が回答兼刷還使から朝鮮通信使へと変更されたことに着目し、日本・朝鮮それぞれの視点に立って、変更の理由について考察する。		○		○	d歴史の解釈の多様性を理解できたか。 b解釈を成り立たせる根拠・論理を考察できたか bどの解釈や歴史叙述が妥当性を持つのかを判断できたか b 根拠を基に筋道立てて考えを説明できたか。	
		１．幕政の安定 ＊17 世紀後半から 18 世紀前半までの江戸幕府の安定期について、その平和と秩序の確立の視点で考察する。		○		○	d 文治政治への転換から元禄時代・正徳の政治を取り上げ、幕政の安定過程を考察できたか。	
		２．経済の発展 ＊幕藩体制の安定期の農業・商工業などの発展について、諸産業相互の関係やその社会的役割を踏まえて考察する。		○		○	b 農業技術の進歩に伴う農業生産の進展、産業の発達と多様化、交通の整備や貨幣・金融制度の確立による商品経済・流通の発達、三都の発達に見える都市の経済的繁栄に着目して、諸産業の展開を考察できたか。	
		３．元禄文化 ＊経済の発展と関連して町人文化が形成された事について、町人の社会的台頭や幕藩体制の安定と関連させて理解する。			○	○	c 元禄文化について、町人の経済的繁栄や商業活動の拡大など経済の発展や、幕府の教学として発展する儒学などに着目して、文学・学問・美術を踏まえて考察できたか。	

2学期期末考査	第8章　幕藩体制の動揺	１．幕政の改革 　＊農村や都市の変容により幕藩体制が動揺する中、幕府や諸藩が行った諸改革の意義とその影響を考察する。	○	○		○	a 幕府・諸藩の経済的窮乏、百姓一揆・打ちこわしの頻発などに着目して、享保の改革や田沼時代の諸政策の意義について考察できたか。	定期考査 ワークシート
		２．宝暦・天明期の文化 　＊江戸中期に確立した洋学や国学、新たな形で展開する文学・芸能・美術について、社会の変容に伴う幕藩体制の動揺と関連づけて考察する。		○	○	○	c 社会の変容に着目して、この時期の学問の確立、各地に設立された教育機関の展開をとらえられたか。	
		３．幕府の衰退と近代への道 　＊欧米諸国のアジア進出による国際情勢の変化やそれに対する幕政の対処を踏まえて幕府が衰退していく過程を考察する。		○		○	d 列強の接近に伴う諸事件による鎖国政策への批判や寛政の改革・文化文政時代・天保の改革における失政を踏まえて、幕府の衰退をみることができたか。	
		＊近代化の基盤の形成について、産業経済面や軍事面などに着目して、雄藩の浮上という地方からの視点から考察する。	○	○		○	b マニュファクチュアなど近代の萌芽がみられ、諸藩の財政再建から軍事産業確立に至る雄藩の出現過程を考察できたか。	
		４．化政文化 　＊化政文化について、学問・思想・教育・文学・美術・生活文化の新たな展開に着目し、江戸と地方の文化的交流にも留意して考察する。		○	○	○	c 幕藩体制に批判的な学問・思想の起こり、寺子屋など庶民教育機関の普及、浮世絵に象徴される出版文化の発達などに着目して、文化における近代化の芽生えを考察できたか。	

	第Ⅳ部 近代・現代 第9章 近代国家の成立	1．開国と幕末の動乱 ＊国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して、開国から明治維新に至るまでの過程を社会・経済面での変化と関わらせて考察する。		○	○	○	b 日米和親条約・修好通商条約締結、開港による経済・社会の情勢変化に着目して、政局への影響を考察できたか。	定期考査 ワークシート
		＊幕末の動乱における天皇を中心とする統一国家構想の芽生えから幕府の滅亡、旧幕勢力の一掃に至るまでの経過を理解する。		○		○	d 公武合体、尊王攘夷、倒幕の動きに着目して、権力構造の変化を理解できたか。	
		2. 明治維新と富国強兵 ＊明治新政府の制度改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、明治初期の政治的変革と国家的統一過程を考察する。		○		○	b 藩置県・徴兵制・四民平等・秩禄処分・地租改正・殖産興業政策に着目して、明治政府が中央集権体制を構築していく過程を考察できたか。	
		＊欧米の文化・思想の導入と一連の近代化政策に対する反動としての士族反乱・農民一揆の失敗と、言論による要求実現への転換を理解する。	○		○	○	c 近代化政策や欧米文化の導入について、国民の間に受容と反発があったことを理解できたか。また、武力反抗から言論による抵抗に移行する要因を考察できたか。	
		＊明治初期の対外政策について、欧米への対応と、アジアに対する外交政策の違いについて考察する。	○	○		○	b 国境画定を含む明治初期の外交政策について、欧米諸国への対応とアジア諸国への対応の違いを多面的・多角的にとらえることができたか。	

		3．立憲国家の成立と日清戦争 ＊政府の強力な中央集権体制の志向の中、自由民権運動の始まりから立憲国家の成立に至る間、近代国家の基盤が形成されていく過程を考察する。		○		○	d 国会開設要求の運動などに見られる国民の政治的関心の高揚と挫折の過程について考察できたか。また、憲法の特色、議会と内閣の在り方などを通して、戦前の立憲制のしくみを理解できたか。	定期考査 ワークシート
		＊東アジアをめぐる国際環境が変容するなか、国家的課題であった不平等条約の改正交渉が進展した過程や、朝鮮問題から日清戦争に至る経緯について考察する。	○	○		○	d 条約改正が、法典整備など国内体制の確立だけでなく、英露対立を背景にして進展した点を、年表や地図から考察できたか。また、朝鮮をめぐる対立が日清戦争の背景となった点を理解できたか。	
		４．日露戦争と国際関係 ＊開戦に至る国際関係や、日露戦争の経過、戦後の日本の国際的地位の変化と植民地支配の推進を諸外国の動向と関連付けて考察する。		○	○	○	b 英露対立という世界情勢を背景とした日露戦争が軍事力・経済力・工業力など国家の総力を結集して戦われた点を考察できたか。また、日本の勝利がアジア諸国の民族独立や近代化運動を刺激した反面、その後の韓国併合や満州進出の動きが国民の対外意識や近隣諸国の受け止め方への変化につながったことについても考察できたか。	
		＊立憲体制成立後から桂園時代にいたるまでの国内政治の動きを、政党と藩閥の対立と協力の視点から考察する。		○		○	b 立憲政友会の成立から桂園時代に至る過程について、軍備の拡張の視点を踏まえて考察できたか。	
		５．近代産業の発展 ＊日清・日露戦争前後にかけて資本主義国家の基礎が確立された過程を、産業革命や近代産業の発展に着目して考察する。		○		○	b 殖産興業政策を基礎に産業基盤の整備が進み、繊維部門での産業革命以降、製鉄・造船などの重化学工業の形成、鉄道・海運の伸張、財閥の形成、寄生地主制の成立などを相互に関連づけて考察できたか。	

		６．近代文化の発達 ＊伝統的な文化のうえに欧米文化を摂取するなど二元性を持って成立した近代文化の特色について、政治・経済・外交などの視点をもって考察する。	○		○	○	a国家主義的な思想の形成、実証的な学問研究の風潮、欧米の科学技術の導入、高い就学率を誇る教育の普及・拡充に着目して、国民が主体的に文化の創造に取り組んできた姿勢を考察できたか。	
	第１０章　二つの世界大戦とアジア	１．第一次世界大戦と日本 ＊第一次世界大戦前後の政治の動向及び対外政策の推移について、政党政治の発展や日本の中国進出の状況を踏まえて考察する。		○		○	ｂ第一次護憲運動による大正政変以降、政党勢力が国民統合の中心的役割を果たしていく過程を理解し、欧米からアジアに至るまで広い範囲の国際環境の推移に着目し、対華二十一カ条要求・シベリア出兵が国内外に及ぼした影響について考察できたか。	
		＊第一次世界大戦が日本の社会経済や政治に及ぼした影響について、欧米・アジア経済との関連や政党内閣の成立などと関連させて考察する。		○		○	ｄ大戦景気に着目して、資本主義の発展による産業構造の変化や労働者の増加など社会構造の変化について考察できたか。また、米騒動や原敬内閣の成立に着目してデモクラシー思想の浸透による政党の役割と動向について考察できたか。	
学年末考査		２．ワシントン体制 ＊ワシントン体制に至る国際的協調体制の進展など国際環境の推移を、日本の立場に着目して考察する。		○		○	ｄヴェルサイユ体制からワシントン体制に至る経過や日本の大陸進出に対する中国・朝鮮における民族運動の高揚に着目できたか。	

		＊民主主義的風潮による社会運動の動向を理解すると共に、普選運動など政党政治の発展から二大政党による政党内閣制成立に至るまでの意義について考察する。 ３．市民生活の変容と大衆文化 ＊労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の基盤の成立に着目し、都市化や国民生活の変化を踏まえて、市民文化の特色について考察する。	 ○	○ ○		○ ○	ｄ労働争議・小作争議・女性解放運動・部落解放運動・社会主義運動など様々な社会運動が起こってきた背景に着目できたか。普選運動・護憲三派内閣の成立・治安維持法の成立などに着目して政党政治を考察できたか。 a 学問・芸術・出版・マスメディアなどを具体的に取り上げ、欧米文化の関わりとその浸透度、社会風潮との関連付けに着目して考察できたか。	
		４．恐慌の時代 ＊戦後恐慌から昭和恐慌に至る国内経済の動揺について、国内・国外の経済状況と対策に着目して理解する。 ＊社会主義運動の高揚と国家主義の台頭による軍部の政治的進出を踏まえて、協調外交が挫折していく過程を考察する。 ５．軍部の台頭 ＊日本の対外政策の推移について、世界情勢や軍部の政治的進出に着目して、政党内閣の崩壊や国際的孤立の過程について考察する。		○ ○ ○		○ ○ ○	ｄ戦後恐慌・金融恐慌・昭和恐慌を取り上げ、背景となる関東大震災・金解禁・世界恐慌との関連を含めて理解できたか。 ｂ無産政党の誕生など社会主義運動が高まる中、山東出兵や統帥権干犯問題など軍部の政治的進出を背景に協調外交から積極外交へと転換していく過程を考察できたか。 ｂ満州事変から国際連盟の脱退に至る日本の対外政策について、五・一五事件などの国内の状況も踏まえて考察できたか。	

		＊恐慌から脱出し、国家主義が高揚するなかで、五・一五事件から二・二六事件にかけて、軍部の影響力が増大していく過程を考察する。		○		○	ｄ管理通貨制度への移行、新興財閥の台頭、思想的転向や学問への弾圧などを踏まえ、軍部の政治関与が増大した過程を考察できたか。	
		６．第二次世界大戦 ＊日中戦争の勃発から太平洋戦争の突入にいたる過程について、国民生活の変化や諸統制に着目して全体主義的な国家体制の進展を考察する。		○	○	○	ｃ中国の動向など国際関係の変化、日中戦争・第二次世界大戦・太平洋戦争それぞれの性格、戦時下の経済と国民生活・文化など、様々な角度から考察することができたか。	
		＊第二次世界大戦について、国家間の相違や総力戦の特色を踏まえ、この戦争が空前の惨禍をもたらした点に着目して、平和で民主的な国際社会の実現に努める重要性を認識する。	○	○		○	ｂ連合国と枢軸国の性格の違いや国民生活の犠牲のうえに成り立っていた総力戦体制などを踏まえ、日本がアジアの諸国に多大な損害を与えたことや広島・長崎への原爆投下など日本も空前の戦禍を被ったことに着目できたか。	
	第１１章 占領下の日本	１．占領と改革 ＊戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策及び戦後の民主化政策とそれに伴う諸改革について、その経過と内容を考察する。	○	○			aＧＨＱによる諸政策が、対日占領政策に基づくとともに、日本の国民の戦争に対する反省に支えられて実施されたことに気付けたか。	
		＊戦後政治の動きを踏まえて、集大成となる日本国憲法制定の意義を理解する。	○	○		○	ｄ主権在民・平和主義・基本的人権の尊重の３原則を中心とする日本国憲法が制定された経緯と意味を、国民生活の状況も踏まえて考察できたか。	

		２．冷戦の開始と講和 ＊東アジア情勢の変化を踏まえ、連合国による占領が終結し、日本が独立した意義を考える。 ＊連合国による日本占領の終結と、その後の日米関係の継続について、様々な国の立場から考察する。	 ○	○ ○		○ ○	ｂ中華人民共和国の成立、朝鮮戦争の勃発に伴う占領政策の転換として、経済面では経済安定九原則、政治面では警察予備隊の新設に着目して考察できたか。 ｂサンフランシスコ平和条約の調印による日本の主権回復の意義と、安全保障をアメリカに依存する日米安保条約の締結の意味を考察できたか。
	第１２章 高度成長の時代	１．55年体制 ＊独立後の日本国内政治について、衆議院を保守・革新の二大勢力が占める55年体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を考察する。 ＊冷戦構造に雪解けの状況が生まれる中、日本が国際社会に復帰したことについて、日本の国際連合への加盟、アメリカ・中華人民共和国・大韓民国との関係に着目して、独立回復後の日本の動きを考察する。	 ○	○ ○	 ○	○ ○	ｄ保守合同による自由民主党の成立から経済成長を背景とした安定した保守政権の誕生に至るまでを、外交・政治・経済を踏まえて多面的・多角的に考察できたか。 ｃ日ソ共同宣言をはじめとするサンフランシスコ非調印国との国交交渉と、国際連合加盟の意義を理解できたか。また、その後の新安保条約・ＬＴ貿易・日韓基本条約・沖縄返還問題などを取り上げ、外交・政治の再編過程を把握できたか。
		２．経済復興から高度成長へ ＊朝鮮特需による経済復興とその後の高度経済成長について、経済の国際化と国内の技術革新などの側面に着目して考察する。 ＊消費革命による社会の変貌と経済成長がもたらしたひずみである社会問題について考察する。	 ○	○ 	 ○	○ ○	ｄ特需景気の影響、産業構造の高度化などを踏まえ、開放経済体制のもとでの日本の動きを考察できたか。 a耐久消費財の普及による豊かさの享受、流通網・交通網の整備、技術革新が進む一方、農村の過疎化や公害問題などの社会問題にも注目したか。

	第13章 激動する世界と日本	１．経済大国への道 ＊ドル＝ショックや、石油危機を踏まえて、主要先進国首脳会議が開かれた意義を考察する。	○	○		○	aベトナム戦争を遠因とするドル＝ショックや第四次中東戦争に発する石油危機による世界経済の混乱に対応するため開かれた主要先進国首脳会議が、その後の世界的な問題解決の場となったことに気付いたか。
		＊高度成長が終焉し、保守政権が動揺するなか、二度にわたる石油危機を乗り越え、経済大国としての道を歩み始めた日本の状況を多面的・多角的に考察する。		○		○	ｂ石油危機を技術革新で乗り越え、経済大国となった日本がODAなどの社会貢献や貿易摩擦・円高への対応が求められたことが考察できたか。
		２．冷戦の終結と日本社会の変容 ＊冷戦体制の終結とそれに関わる国内の状況について、日本の政治・外交・経済・生活文化面を踏まえて多面的・多角的にとらえる		○		○	ｄ冷戦終結後の東欧革命、５５年体制が崩壊した政治状況、バブル経済から平成不況へと進んだ経済状況などを取りあげ考察できたか。
		＊科学技術・産業の発達によって派生する環境問題やエネルギー問題などの日本の課題とそれに対する日本の役割を認識する。	○	○			a原子力に対する安全性、国連平和維持活動への対応、経済不況に対する国内改革など、具体的な例をもとに理解することができたか。
		歴史へのアプローチ ○歴史の論述 歴史の流れを組み立てる ＊世界記憶遺産に登録された山本作兵衛の炭鉱画を通して、八幡製鉄所を支えた筑豊炭田、そこに暮らす人々の営み、戦後のエネルギー革命に着目して、石炭産業の歴史を考察し、それを表現する方法を学ぶ。 ＊この学習を参考に自ら適切な主題を設定して歴史を探究し、表現する。	○	○ ○	○ ○	○ ○	ｂ一連の炭鉱画を読み解いて得られた情報を、既習知識と結びつけて、多面的・多角的な考察ができたか。 ｂ主題設定の的確性、資料解釈の妥当性、複数の解釈を比較・検討・選択する際の論理性、叙述力・表現力は十分か。

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。
・２学年で学習した日本史Ｂの内容の続きから作成している。

※　評価方法について

・平常の授業に取り組む姿勢，定期考査の結果，課題やレポートなどの提出物の状況を総合的に判断し，尚かつシラバスに記載した評価の観点に即して総合的に判断する。
・授業への取り組む姿勢は，授業態度，ノート提出，発表の状況などを評価の対象とします。
・課題やレポートなどの提出物では，提出期日や分量を守れたか，自分の視点で考察できたか，丁寧に書くことができたか等を主な判断基準とする。